

おもしろいね！が、きっとみつかる

シニア世代の地域デビューを応援！  
～アッティーヴォ～

# attivo

「attivo (アッティーヴォ)」とは、イタリア語で「活動的な、行動的な」という意味です。

みやシニア  
活動センター  
通信 vol.50

(令和5年1月発行)

## 縁起のいいもの

今年も平凡ではあるがよい新年を迎えることが出来た。新年を迎えて「縁起がいいもの」は何があるか考えてみた。頭に浮かんだのは、初夢に見ると縁起がいいと言われる「一富士 二鷹 三茄子」である。これはどういう意味か。よく言われるのは、富士は日本一の山、鷹は賢くて強い鳥、茄子は「ことを成す」となる。

縁起のいい並びである。また掛け言葉となるが縁起のいい別の意味がある。富士は「無事」、鷹は「高い」、茄子は「ことを成す」。「一富士 二鷹 三茄子」という諺は江戸時代初期からあったそうである。徳川家康にちなんだ、という説があるそうだ。まずは、家康ゆかりの地である駿河の国で高いものが順に並び。富士山、愛鷹山、初売りの茄子の値段。もう一つの意味は、家康が好んだものをいう。富士山、鷹狩り、初物の茄子。他にも解釈があるらしい。枚挙にいとまがない。

さらに調べてみると後に続く言葉がある事がわかった。「四扇 五煙草 六座頭」と続く。これはそれぞれが対応している。富士と扇は、末広がり子孫や商売繁盛。鷹と煙草の煙は、上昇するので運氣上昇。茄子と座頭は、毛が無い「怪我無い」家内安全を願う。

こうしてみると、ことは遊びとは言え何か幸せな気持ちになってくる。本当に初夢で「一富士 二鷹 三茄子 四扇 五煙草 六座頭」を見てみたい。

さて、新春1月を飾る50号の皆さま方は



① 郷間さん



② 笠松さん



③ 大貫さん

- ① 伝統芸道を極める！
- ② 人が好き 音楽が好き
- ③ 宇都宮の良さを発信する

郷間 サヨ子さん  
笠松 征司さん  
大貫 裕さん

- 発行／編集 みやシニア活動センター（宇都宮市 保健福祉部 高齢福祉課）  
住所：宇都宮市旭1丁目1番5号 宇都宮市役所2階 高齢福祉課D8窓口  
電話：028-632-2368 ファクス：028-639-8575  
ホームページ：https://www.city.utsunomiya.tochigi.jp

# ① 伝統芸道を極める！

郷間 サヨ子さん

取材：肥後特派員



皆さんは「吟詠剣詩舞」をご存じでしょうか。宇都宮でも多くの方が、この日本古来の伝統芸道を極める活動をされています。いろいろな場で拝見することが出来ます。漢詩や和歌を詠う吟詠と、吟詠に合わせて舞う剣詩舞を合わせた、日本の伝統的芸道です。本日紹介する郷間サヨ子(ごうま さよこ)さんは、この吟詠剣詩舞に10年間熱く取り組んでおられます。各種芸術祭や発表会、そしていろいろな場でボランティア活動をされています。

『富士山』 石川 丈山 作  
仙客 来り 遊ぶ 雲外の巔(いただき)  
神龍栖(す)み 老ゆ 洞中の淵  
雪は 紈素(がんそ)の如く 煙は柄の如し  
白扇倒(さかしま)に懸かる 東海の天

富士山 石川丈山  
仙客来遊雲外巔  
神龍栖老洞中淵  
雪如紈素煙如柄  
白扇倒懸東海天

この『富士山』の歌の意味は次の通りです。

仙人が来て遊ぶ神聖な富士山の頂。雲を突き抜けて高くそびえている。山頂の洞窟の淵には神龍が栖んでいると伝えられている。山頂あたりは純白の雲に覆われ、ちょうど白絹を張ったようだ。立ち昇る噴煙はその扇のように見える。まるで東海の大空に、白扇が逆さまにかかっているようだ。

この富士山の気高く美しい姿を詠んだ詩歌を、新春に相応しく護国神社で初詣の場で奉納吟をします。そのあと、新年会で初踊りを舞います。

郷間さんは平出町在住です。平成25年シルバー大学校に35期生として入学しました。そして、吟詠剣詩舞に出会いました。品格を重んじるこの日本古来の芸道に、郷間さんは自分にピッタリくるものを感じました。吟じる部分と舞う部分の意味を十分に理解し、それを表現する大変難しい作業で苦勞します。しかし、これがまたまたやりがいを感じる訳です。漢詩や和歌に節調をつけ詠う吟詠は詩の意味や背景を知ることから始めます。そして、武士道の気迫を舞で表現します。また、扇で傘、雨、月、笛、風等を表現します。品格と優雅さを求められます。でも「好きこそ物の上手なれ」。精進する気持ちに少しも億劫な気持ちはありません。郷間さんは、シルバー大学校を卒業後、吟詠と剣詩舞の稽古や活動をする扇翠流扇翠会に入ると同時に、同じシルバー大学校の35期生の5人で「サンゴ会」を結成しました。35期生で「サンゴ会」です。発表会、芸術祭への参加やボランティア活動をする為の稽古を一緒にやります。5人で吟詠剣詩舞を演じるためには、気持ちが通っていることが大切です。お互いが認め合い、尊敬し合う、そういう関係でなければなりません。その為に、定期的な登山や食事会などで親睦を深め



(左端が郷間さん)

ています。「今後も、この吟詠剣詩舞で出会えた仲間を誇りに思いつつ活動していきたい」と言われます。5人の仲間は、亀田扇冠さん、大塚扇壮さん、高橋扇星さん、永嶋扇雪さんそして、今回紹介した郷間扇月(郷間サヨ子)さんです。

## ② 人が好き 音楽が好き

笠松 征司さん  
取材:細川みち子特派員



令和5年6月18日、コロナ禍により延期を余儀なくされていた「ザ・コーラス静輪(せいわ)」の第7回演奏会が、栃木県総合文化センターメインホールにて開催されます。「ザ・コーラス静輪」とは、指揮者 鈴木静枝先生の下、研鑽を積んでいらっしゃるコーラスグループ10団体320人で構成された団体で、平成6年から3年に1度、演奏会を開催し、門下生同士グループ相互の絆を深めています。

今回は、演奏会実行委員長でもあり、宇都宮の合唱発展に尽くしてこられました、笠松征司(かさまつ せいじ)さんにお話を伺いました。

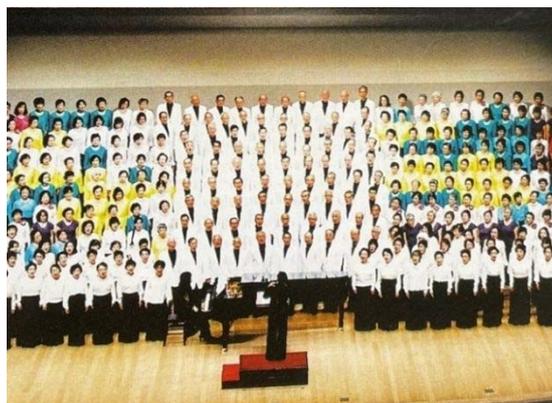
笠松さんは満州で生まれ、石川県金沢市で育ちました。(現在、栃木石川県人会観光特使として石川県の魅力を各方面に発信されています)。その後、大阪の大手電機メーカーに就職をされ、会社の先輩からの誘いで会社の合唱団に入団したのが、合唱との出会いでした。小学生の頃音楽の授業で、歌のお手本に指名されるほどの美声の持ち主だった笠松さんは、以後、仲間と歌いあう喜びや歌を通して人とのつながりが、ハーモニーとなって響きあう合唱に魅了され、更に大阪地元の市民合唱団にも入団し歌っておられました。新工場建設のため宇都宮市に転勤された後も、会社で知り合ったPTAコーラスのお仲間にも勧められ、当時から精力的に合唱指導をされていた鈴木静枝先生に、合唱と声楽のご指導を頂く事となりました。先生の美声と卓越した指導力に魅せられ、新しく発足する「合唱団バオバブ」のメンバーに加わり、初代の団長になりました。

その後、仕事が多忙となり、海外転勤や責任ある役職を務めるなど、しばらくの間、合唱から遠のいていましたが、平成10年に会社を勇退されてから現在まで、合唱とともに歩んでこられました。帰国後は、合唱団バオバブ団長に復帰し、宇都宮市民合唱協会会長などを務めるほか「宇都宮男声合唱団」や「コーロ・オステリア」を設立し、男声合唱フェスティバルを開催しました。また、平成18年に設立した男声四重唱「クールセブンティーズ」のメンバーとして、これまでに県内外でボランティア演奏を平成30年まで210回行っていました。

昭和47年7人のお母さんたちでスタートした「ザ・コーラス静輪」の演奏会実行委員長として、平成12年中国北京公演に110人で参加するなど、以後精力的に活躍されていらっしゃいます。

パワフルな笠松さんに、その原動力を伺いました。人が好き、音楽が好き、音楽は力、元気、勇気を与えてくれる。心に寄り添ってくれる。これまで「被災地チャリティーコンサート」や国連合唱団との「世界の子供たちのために」チャリティーコンサートでの演奏経験から歌には無限の力があると話されます。そして楽譜は人類の共通語だ。世界各国どこにいても、誰でも、何人でも、楽譜があれば音楽が奏でられる。今後も、地元や軽井沢での演奏会が控えていらっしゃる笠松さん。24年目を迎えたウォーキング暗譜。それはとても力強い歩みでした。

笠松さんが代表を務めていらっしゃる、栃木県出身の夫婦デュオ「ダ・カーポの会」第7回雨情を歌う(仮)は、時期を見て開催する予定です。拝聴するのが楽しみです。



(第5回ザ・コーラス静輪演奏会)

### ③ 宇都宮の良さを発信する

大貫 裕さん

取材：猶原特派員



「宇都宮の豊かな歴史」を知ってほしいと活動されている大貫 裕(おおぬき ゆたか)さんの紹介です。

大貫さんは、長唄の唄方50年のプロでいらっしゃいます。芸名は和歌山 富裕嗣(わかやま とみゆうじ)さんです。長唄に興味を持ったのは、遊び好きが高じて江戸文化のお座敷遊びに興味を持ち、歌舞伎の系統の長唄に取り組みました。市内に芸者衆の稽古所があったので2、3年は稽古の空き時間に教えていただきました。教えていただく時間が不規則なので大変だったようです。幸

い友人の個人商店に勤めていた関係で、無理をお願いして時間を作り出されました。その後は、先生のご自宅(浅草)で月2回の土曜から日曜日までの練習と相変わらずの不定期な宇都宮での練習が続きました。そして約15年でプロに転向し、その後は各地での演奏会や発表会に呼ばれて出演され現在に至っています。簡単に長唄について説明しますと、三味線や打楽器等の演奏者と唄方(うたかた)や歌い手による音楽です。最小演奏単位は、三味線方2名唄方1名ですが、編成が大きくなるとそれぞれの人数が増え、さらに打楽器も加わり、歌舞伎等のように明るく、華やかになるようです。

50年前は、主にお金と時間に余裕のあった庶民の高尚な道楽でしたが、芸能の世界が変わってきた事、戦記物や武張った物から、最近は色・恋物の柔らかい物も歌われるようになった事、男性が減ってきた事のようにです。

また、大貫さんは地元で色々活動されています。まず「宇都宮鳶木遣り保存会」の会員として約35年、現在も理事として活動されています。長唄の経験を生かして「声を出し、歌うこと」で協力できるということで活躍されています。木遣り唄は元々、大木や石を大勢で引いて行くときに歌われた作業唄です。

労働の機械化により変化し、聞かせる唄として祭礼や婚礼、上棟式、出初め式等で歌われています。「大きい人・物、大切な人・物」を「特定の場所に送り込む」ことから、祝儀・不祝儀歌として歌われているようです。

木遣り唄を歌いこなすには、歌詞が口伝のため、5年から10年程度の相当の年数が必要です。夜集まって練習しますが、大声を出せる場



所の確保が大変です。行事・表現の場の減少や心の豊かさの変化により、厳しい状況ですが「粹」な世界をぜひ継続して欲しいです。

そのほか、大貫さんはうつのみやシティガイド協会の設立に取り組みました。約20年前に文化財の学習や解説、観光案内等の経験や反省を生かして、ボランティア養成講座を市と協力して立ち上げました。8年間会長を勤められ、現在は顧問として活動されています。

さらに、地元自治会長としてお忙しい上に、山車作りにも活動されていて、新しい山車の製作中です。また、ミヤラジに毎月第2金曜日15時より「歴史番組」を担当されています。

このように、大貫さんがご自身の大好きなことに熱中し活動できるのは、奥様の応援があったのことに感謝されています。今後もお元気でご活躍をお願い致します。